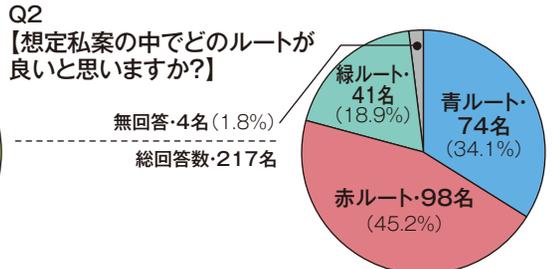
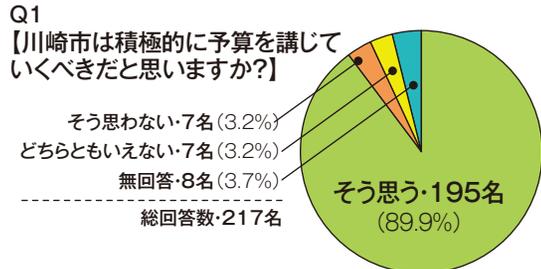


※ルート想定地図内の黄色部分は戸建て住宅等の密集エリア



延伸に関する市民アンケート 川崎市・横浜市に報告しました。

(平成28年3月~実施、10月末集計)



Q3 【青ルートを選ぶ理由】

- ・グリーンタウンから近い。新大谷あたりに空き地あり(王禅寺東5)
- ・戸建て住宅地の下を通るルートは、予算4倍、時間3倍多く必要と考える(上麻生2)
- ・戸建て密集エリアを通らない(住民調整が容易、コスト減)。利用者の需要がある(王禅寺西7)
- ・戸建て住宅地域の影響少ない。新大谷地区開発、グリーンタウン、麻生団地活用に効果(上麻生2)
- ・住宅密集していない。距離が短い。大学がある。道路渋滞が緩和される(はるひ野4)
- ・道路幅が広いエリアが多く工期短縮が期待。グリーンタウン、麻生台団地、三井住宅があり利便性、採算性が良い(王禅寺4)

【赤ルートを選ぶ理由】

- ・距離が最短。人口集中(グリーンタウン、王禅寺東、西)している(千代ヶ丘9)
- ・グリーンタウン等大規模集合住宅あり。文化都市として川崎の差別化ができる(王禅寺東4)
- ・映画大学付近を通ることで映画の街としてイメージアップ(王禅寺西1)
- ・グリーンタウン、映画大学があり利用者多い。最短距離で工事費用、期間のメリットあり(王禅寺西3)
- ・新百合駅周辺の道路事情を考えグリーンタウンからのバスを減らせる(王禅寺東2)
- ・人口密集地を通る。バスからの移行が見込まれ、渋滞低減が期待できる(上麻生1)

【緑ルートを選ぶ理由】

- ・住民以外にコネッティー、田園調布大学、かわさき記念病院の利用者が見込める(高石1)
- ・尻手黒川線の下の利用、駅設置等条件が適している(王禅寺西2)
- ・尻手黒川線の下の利用、騒音問題が少なそう。大学とコネッティーがあり利用者多い(王禅寺西5)
- ・尻手黒川線が利用できる。日吉の辻~日吉間の道路完成と併せての工事が合理的(王禅寺東1)
- ・虹ヶ丘・日吉間は非住宅地が大半で取用上メリットあり(王禅寺東1)

横浜市営地下鉄3号線とは

ブルーラインという愛称で呼ばれる横浜市営地下鉄3号線。湘南台駅(藤沢市湘南台)から関内駅までの1号線と関内駅からあざみ野駅間は一体的に運行していて、総距離40.4km。都営大江戸線に次ぐ日本第2の長距離地下鉄です。横浜市試算では、延伸によって「あざみ野-新百合ヶ丘」間は現状の約36分から11分と25分短縮され、2回の乗り換えもなくな

ります。「新百合ヶ丘-新横浜」は46分から26分になります。JR横浜線とともに、2027年に完成予定の中央新幹線(リニア)「橋本駅」と東海道新幹線「新横浜駅」を結ぶルートとなります。横浜市によれば、あざみ野-新百合ヶ丘への延伸需要規模は45~53千人/日(輸送密度)。現在の相鉄いずみ野線と同規模です。概算事業費は概ね1,300~1,500億円、累積資金収支は23~31年目で黒字転換すると試算されています。

平成28年 決算審査特別委員会

(まちづくり分科会 第1日) -09月26日-08号

◆あまがさ裕治 横浜市営地下鉄3号線のあざみ野駅から新百合ヶ丘駅への延伸に係る横浜市と川崎市の連絡会は、平成27年度に4回の会議を持ったが、それぞれの詳細と本市の取り組みは?

◎武藤智則 交通政策室担当課長 「横浜・川崎連絡会」の平成27年5月、8月の会議では、同年8月に開催された「交通政策審議会のヒアリング」への対応について協議調整を行い、共同で横浜市営地下鉄3号線延伸の提案を行った。ヒアリング後の11月の会議では、すすき野、新百合ヶ丘駅周辺の現場確認を行い、平成28年3月の会議では、平成28年度のスケジュール確認などを行った。

◆あまがさ 一緒に現場確認等も行って、協議して行ったとはいうが、平成27年度の委託業務の具体的な内容と成果では川崎市側は積極的でないと聞いている。横浜市と協議した具体的な内容は?

◎交通政策室担当課長 委託業務は、今後の鉄道新線整備に伴うまちづくりへの影響に関する他都市事例の調査や、路線計画検討に必要な地図データの作成を行った。なお、地図データは、横浜市に資料提供しており、横浜市における事業計画検討の深度化が図られると考えている。

◆あまがさ 横浜市へ提供したデータの内容と時期は?

◎交通政策室担当課長 新百合ヶ丘駅周辺の縮尺1,000分の1の現況平面図を、平成28年8月に提供した。

◆あまがさ 横浜市との協定に基づいて、JR南武線連続立体交差事業も同時に協議を進めている。事業

内容や担当部署は異なっても、本市としては、この2事業におけるお互いの進捗状況をよく把握、確認して取り組むことがこの施策上必要だが。

◎交通政策室担当課長 横浜市営地下鉄3号線延伸とJR南武線連続立体交差事業は本市にとり重要な事業と認識しており、関係部局が互いの事業の進捗状況を把握することは横浜市と連携を図る上で大変重要。これまでも事業の進捗にあわせて適宜情報交換を行ってきたが、今後も引き続き、両事業の円滑な推進に向け、情報共有を図っていく。

◆あまがさ 28年4月に発表された交通政策審議会において、答申24路線のうち4つの実現性の高い実施すべき、「べき路線」として位置づけられた。これは国土交通省の担当の課長から、私が直接話を聞いたが、位置づけに当たり、国土交通省において再度厳しめのB/C(費用便益比)を行った上で選定された。つまり、速達性やなるべく曲がらないルートが検討されている。「すすき野新駅」は、「あざみ野駅」からほぼ直進で進む位置であることが明らかになっているが、「すすき野新駅」からなるべく直線に近いルートで「新百合ヶ丘駅」に入ることが前提だということは紛れもない。さらに起終点の「新百合ヶ丘駅」をしっかりと2線を確保しながらつくり上げていく。平成27年度のこういった事業を踏まえ、今後の対応についてまちづくり局長から見解を伺いたい。

◎金子督 まちづくり局長 新百合ヶ丘駅周辺地区は、本市の広域拠点として整備を進めてきた。横浜市営地下鉄3号線の延伸に伴うターミナル機能の強化は、広域拠点として大変重要な要素であると認識しているので、今後も引き続き、将来を見据えたまちづくりのあり方について検討していきたい。

郵便はがき

215-8790

料金受取人払

麻生局承認 526

差出有効期間 平成29年12月20日まで

(受取人) 526 川崎市麻生区高石 3-27-4

あまがさ裕治 事務所行

あなたのご意見をお寄せ下さい

お名前	住所・電話
ふりがな	川崎市 TEL ()